

変更の考えない

鮪立漁港
防潮堤高

県が住民要望に回答

気仙沼市唐桑町の住民が鮪立漁港の防潮堤高を海抜5.5mで整備することを県に要望していたが、県は9日までに変更しない考えを文書で回答したことが分

出。今月2日には県気仙沼地方振興事務所水産漁港部に、住民7割以上にあたる441人の署名簿を添えて要望した。

これまでと同じ説明に、鮪立自治会の鈴木好典会長は「鮪立の実情を考慮した回答を求めていたのに、まったく誠意が感じられない」と落胆の表情。8日には自治会内

部のまちづくり委員会が対応を協議し、菅原市長との懇談の場を設け、菅原茂市長に県への働きかけを求める考えだ。

回答は水産漁港部を通じて届いた。それによると、過去の津波痕跡高、シミュレーションを合わせ、小鯖、宿など地域で一定の安全性を確保することを説明。個別の要望には

応じられない意向を示した。8日には自治会内

県は9.9mの高さで計画しているが、住民は過去最も高い津波の痕跡高（東日本大震災を除く）は4.5m、必要以上の高さは地域衰退に拍車をかけるとし、9月に村井嘉浩知事あての要望書を提

示した。

合わせるよう市のバックアップを求めることにした。